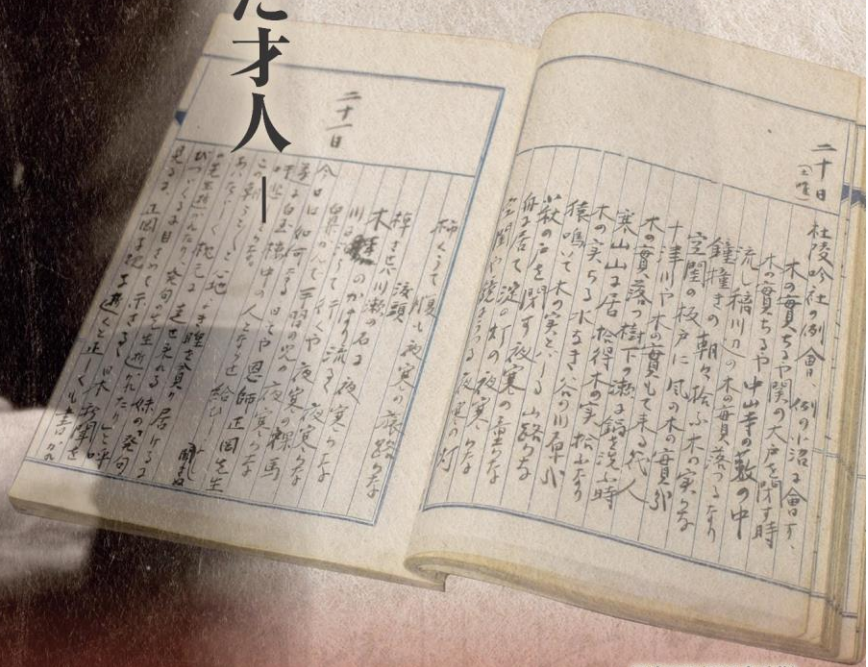


原

はら とおる

達

— 叔父・原敬はらたかしに期待された才人



原達日記(原昌彦氏蔵)

東京外国語学校時代・23歳(紫波町教育委員会蔵)

令和4年10月22日(土)~令和5年1月15日(日)
原敬記念館小ホール 企画展示コーナー

- 開館時間/9:00~17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日/毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)・年末年始
- 入館料/一般 200円(団体 120円)
小・中学生 50円(団体 30円)
団体料金は30人以上の団体に適用します

指定管理者:公益財団法人盛岡市文化振興事業団

原敬記念館

HARA-KEI MEMORIAL MUSEUM

〒020-0866 岩手県盛岡市本宮4丁目38-25
TEL:019-636-1192 FAX:019-636-1185

※ご来館の際は、マスクの着用・手指の消毒など感染症対策にご協力をお願いいたします。なお、感染症の拡大状況によっては本展および関連イベントが中止・変更となる場合もあります。当館のウェブサイトやSNSにて最新の情報をご確認ください。



原 達

はら とおる

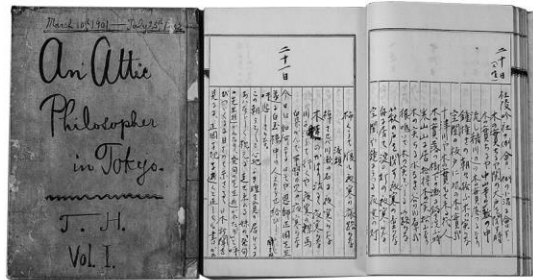
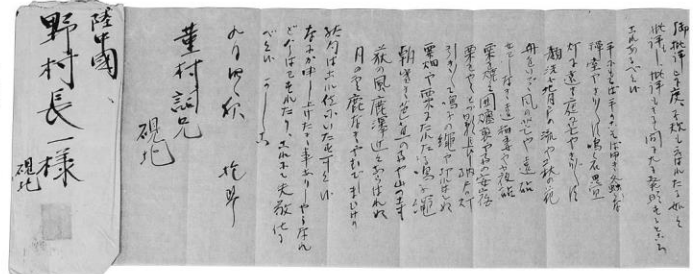
— 叔父・原敬に期待された才人 —
令和4年10月22日(土)～令和5年1月15日(日)

実子がなかった原敬は、甥や姪たちを我が子のように愛しました。中でも将来を期待したのが、兄・恭の二男・達です。
成績優秀な達は、飛び級で岩手県尋常中学校（現盛岡第一高等学校）に入学、やがて東京帝国大学法科大学（現東京大学法学部）の特待生にまでなりました。また正岡子規の弟子となり、俳人・原抱琴としても活躍、岩手に近代文学の新風をもたらしています。しかし肺結核により28歳の若さで他界しました。
2022年は達の没後110年にあたります。この企画展ではこれを記念し、実物資料を通して彼の生涯や業績を紹介します。



伝原達使用産着(原律子氏蔵)
達が生れた時に使われたと伝えられる。兄・香が2歳で他界したため、達は由緒ある原家を継ぐ実質の長男として大切に育てられた。

野村長一宛原達書簡
(野村胡堂・あらえびす記念館蔵)
明治32年(1899)9月4日付。親友・野村長一(のちの胡堂)が指導を求めて送ってきた句に対し、丁寧な批評を加えて返信している。



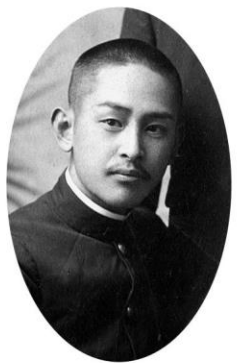
原達日記
[An Attic Philosopher in Tokyo・Japan]
(原昌彦氏蔵)
明治34年(1901)3月10日(18歳)～同37年(1904)2月19日(21歳)。全2冊。原敬や正岡子規、石川啄木らとの交流が記されている。



原抱琴



写真「正岡子規と門弟たち(子規庵蕪村忌)」(紫波町教育委員会蔵)
明治32年(1899)12月24日撮影。子規、高浜虚子、河東碧梧桐ら著名な俳人たちのなかに16歳の達(抱琴)も写る。



原 達 | 1883 ~ 1912 |

明治16年(1883)2月5日、現岩手県盛岡市に生まれる(出生地は青森県という説もある)。原敬の兄・恭の二男。号は村雨、のち抱琴。岩手県尋常中学校から東京府尋常中学校に編入、第一高等学校、東京外国語学校を経て東京帝国大学法科大学に入学する。また盛岡に俳句団体・杜陵吟社を結成、俳誌『紫苑』の選者等も務めた。明治45年(1912)1月17日、肺結核により盛岡の自宅で死亡。享年28歳。

◆企画展関連講座

演題／原 達 — 叔父・原敬に期待された才人 —
講師／田崎農巳(原敬記念館主任学芸員)
日時／令和4年12月17日(土) 13:30～15:00
料金／無料
受付／令和4年12月3日(土) 10:00～電話にて先着15人

◆ギャラリートーク

日時／①令和4年11月13日(日) 13:30～14:15
② 〃 12月17日(土) 15:15～16:00
③令和5年 1月15日(日) 13:30～14:15
受付／①令和4年10月30日(日)、②12月3日(土)、③令和5年1月8日(日)
いずれも10:00～電話にて先着15人
料金／入館料が必要(ただし②のみ同日開催の講座参加者は無料)

(公財)盛岡市文化振興事業団からのお知らせ

[他館のご案内]

◎盛岡市先人記念館

第66回企画展「南部鑄金研究所に集う人々」
令和4年9月17日(土)～11月20日(日)

◎石川啄木記念館

第17回企画展「教科書の中の啄木」
令和4年9月27日(火)～令和5年1月22日(日)

◎盛岡てがみ館

第66回企画展
「野村胡堂生誕140年記念 野村胡堂のてがみ」
令和4年10月18日(火)～令和5年2月13日(月)

